

■小磯国昭 陸軍軍人、政治家。建国直後の満州国に影響力、過激な南進論。大戦末期に首相になるも挽回できず。

こいそくにあき

・ ・ ・ ・ ・ 1880 = 栃木県宇都宮で、旧山形藩士の子に生まれる。

明治14年政変1881 = 1歳 :

帝国憲法発布1889 = 9歳 :

日清戦争始・1894 = 14歳 :

山形中学校を経て、
子規句歌革新1898 = 18歳 :

ピアノ国産化・1900 = 20歳 : 陸軍士官学校(12期)を卒業、
田中正造直訴1901 = 21歳 : 歩兵少尉となり、

日露戦争始・1904 = 24歳 : 日露戦争に中尉で従軍、
日露戦争終・1905 = 25歳 :

韓国反日暴動1907 = 27歳 : 陸軍大学校に入学、

韓国併合・ ・ ・ 1910 = 30歳 : 陸軍大学校を卒業し、陸軍士官学校教官から、

明治天皇没・1912 = 32歳 : 関東都督府参謀をへて、参謀本部員となり、情報謀略を担当。

21ヶ条要求・1915 = 35歳 : 中国に派遣され、
民本主義・ ・ ・ 1916 = 36歳 : 清朝の一族肅親王の宗社党を援助して、満蒙独立運動を画策、
ロシア革命・1917 = 37歳 : 帰国、
本格政党内閣1918 = 38歳 : 第12師団参謀としてシベリア出兵に加わり政治工作を行う。
ペルシヤ条約・1919 = 39歳 ;

原敬首相暗殺1921 = 41歳 :
水平社結成・1922 = 42歳 : 欧州に出張し、第1次大戦の総力戦を研究して「帝国国防資源」を執筆。
関東大震災・1923 = 43歳 : 帰国、歩兵第51連隊長、

治安維持法・1925 = 45歳 : 参謀本部編制動員課長、

金融恐慌・ ・ ・ 1927 = 47歳 : 航空本部総務部長、

世界恐慌・ ・ ・ 1929 = 49歳 : 陸軍省整備局長をへて、
海軍軍縮条約1930 = 50歳 : 軍務局長となり、
満州事変・ ・ ・ 1931 = 51歳 : 三月事件に関わるなど、満州事変前後の軍部の政治進出を推進、
五一五事件・1932 = 52歳 : *荒木陸相のもとで陸軍次官から関東軍参謀長となって、建国直後の満州国を指導、

帝人疑獄事件1934 = 54歳 : 以後、第5師団長、朝鮮軍司令官を歴任し、

日中戦争始・1937 = 57歳 : 大將に進んだところで、
健保+総動員1938 = 58歳 : 予備役に編入、
第二次大戦始1939 = 59歳 : *平沼騏一郎内閣の拓務相となり、
大政翼賛会・1940 = 60歳 : 米内光政内閣にも再任され、南方進出を主張。
日米開戦・ ・ ・ 1941 = 61歳 : 太平洋戦争開戦後、
・ ・ ・ ・ ・ 1942 = 62歳 : 朝鮮総督。

創価学会検挙1943 = 63歳 :
年金+総武装1944 = 64歳 : *東条英機内閣倒壊後、米内と協力して組閣を命ぜられ、首相となる。戦争指導体制の一元化によって、戦局挽回を図ったが、戦況はさらに悪化し、対中国和平工作の繆斌工作の失敗を契機に、

敗戦・ ・ ・ ・ 1945 = 65歳 : *内閣総辞職。敗戦後、A級戦犯となり、

極東裁判決・1948 = 68歳 : 極東裁判で終身刑の判決を受け、服役中、

朝鮮戦争始・1950 = 70歳 : 病没した。